

## 平成29年度 第1回福島県子ども・子育て会議 計画部会 議事録

開催日時：平成29年7月24日（月） 15：10～16：10

開催場所：中町ビル2階 大会議室

出席者：福島県子ども・子育て会議 計画部会委員（8名）

県出席者 事務局（6名）

### 【子育て支援課 影山主幹】

ただいまから、平成29年度第1回福島県子ども・子育て会議計画部会を開会いたします。

はじめに、子育て支援課長の細川より今回の部会の開催趣旨を説明申し上げます。

### 【子育て支援課 細川課長】

今回の部会では、子ども・子育て支援事業支援計画の進捗状況について報告いたします。

今年度は、当該計画の基となる市町村計画を見直すこととしているため、その状況を把握し、県計画の見直しを行う予定であります。

それぞれの市町村においては、今回報告する平成28年度の実績等を踏まえて適切な量の見込みを立て、その見込みに対する確保方策を立てることとしております。

県では、12月までに市町村の数値を把握し、年度内には子ども・子育て会議計画部会を開催して、見直した県計画を審議いただく予定でありますのでよろしくお願い申し上げます。

### 【子育て支援課 影山主幹】

続きまして、福島県子ども・子育て会議条例第8条第3項の規定に基づき、定足数の御報告をさせていただきます。

委員数10名に対し、8名御出席いただいておりますので、過半数に達しておりますので、会議の成立を申し上げます。

本日、鈴木部会長が欠席となっております。

会長欠席の場合は、条例第7条第5項により、部会に属する委員のうちから部会長があらかじめ指名する者がその職務を代理することとなっております。

本日の議長は、事前に部会長より指名いただいている國井委員にお願いし、以後の進行は議長にお願いいたします。

**【議長】**

委員の皆様には、円滑な議事運営に御協力賜りますようお願いいたします。  
それでは、早速ですが議事に移らせていただきます。

はじめに、議事録署名人の選任について、議長からの指名ということで諮りたいと思いますが、樋口委員と須田委員としてよろしいでしょうか。

**【委員全員】**

異議なし。

**【議長】**

樋口委員、須田委員よろしくようお願いいたします。

それでは、次第に添って議事を進めます。

まず、議題の福島県子ども・子育て支援事業支援計画の進捗状況について、事務局から報告をお願いします。

**【子育て支援課 渡辺主任主査】**

平成27年3月に策定した福島県子ども・子育て支援事業支援計画の平成28年度の実績等について、報告します。

この子ども・子育て支援事業支援計画については、実施主体である市町村が、子ども・子育て支援法第61条で市町村計画として、教育・保育及び地域子育て支援の各種事業の量の見込みと確保方策を定めております。

そして、幼児期における教育・保育の実施主体である市町村が策定した子ども・子育て支援計画の数値を踏まえ、子ども・子育て支援法第62条に基づき県の計画を策定したものです。

このため、市町村ごとの状況を概観する必要があります。

資料は保育・教育の状況と地域子ども・子育て支援事業に係る量の見込みと提供対策の確保方策についてまとめたものであります。

まず、保育・教育の部分につきまして、1頁は平成28年度の計画、2頁は平成28年度末の実績、3頁は計画と実績の差をまとめております。

3頁を見ると、計画との乖離が大きい市町村がありますが、現在市町村において計画の中間見直しを行っているところであり、実態に即した量の見込みとそれに対する確保方策を練り直しているところでもあります。

3頁のプラスの値は目標に達していないもの、マイナスの値は目標を超過しているものとなっており、例えば、福島市の3号認定の0歳児の量の見込み④が507人計画を超過している一方で、対応する確保方策⑤が39人計画に達していないことを示しております。

これまで見ていただいている資料は市町村全体の数値ですが、それぞれの地

域ごとに見ますと、定員に余力ある地域もあれば申込みを断っている地域もあることから、こうした待機児童分等を考慮して計画策定を行っていく必要があります。

10 頁に待機児童の状況を提示しておりますが、そうした数値を基に市町村計画の見直しを求めていく考えであります。

次に、地域子ども・子育て支援事業も同様に、4 頁から 9 頁までにまとめております。

4 頁、5 頁は平成 28 年度の計画、6 頁、7 頁は平成 28 年度末の実績、8 頁、9 頁は計画と実績の差を示しております。

8 頁、9 頁を見ると、計画との乖離が大きい市町村がありますが、保育・教育の状況と同じように計画の見直しを現在進めているところでもあります。

11 頁、12 頁には、子ども・子育て支援交付金の実施状況をまとめておりますが、計画では実施するとしているものの未実施の取り組みがあることから、市町村に対し、事例紹介や助言を行い引き続き支援するとともに、そうした内容を計画にも反映するよう助言して参ります。

以上、報告いたします。

#### 【議長】

ありがとうございました。何か御意見、御質問等があれば、事務局がマイクをお持ちしますので、挙手願います。

#### 【議長】

子ども・子育て支援交付金の実績について市町村によってバラツキがありますが、県としてはそれをどのようにとらえ、またどこまで踏み込んでいけるものなのでしょうか。

#### 【子育て支援課 渡辺主任主査】

子ども・子育て支援交付金を活用して、できるだけ多くの市町村で、多くの事業に取り組んでほしいと考えています。

市町村計画に盛り込み実施することが重要ですので、今回の計画見直しにおいて、多くの事業に取り組んでいただけるよう働きかけていきたいと考えております。

#### 【古渡委員】

数値を見ていると、計画を上回っているところもありますが、新制度の取り組みは地域によってバラツキが出ているように思われます。

**【子育て支援課 渡辺主任主査】**

計画の立て方にも問題があると感じています。

今回の見直しでは、実績値や待機児童の状況を加味して数値を作成する必要があると考えております。

**【樋口委員】**

双葉郡はやむを得ないとしても、小さな市町村単独で事業を実施することは困難なので、市町村を越えた連携はできないのでしょうか。

また、待機児童の解消はどのように考えているのでしょうか。

**【子育て支援課 渡辺主任主査】**

例えば内閣府では、市町村を越えた連携として病児保育の広域実施の例をあげております。

今後、市町村の意見を聞くなどして対応していきたいと考えております。

**【子育て支援課 細川課長】**

待機児童が昨年より増えたこともあり、待機児童が発生している市町村を訪問して聞き取りを行いました。

それによると、各市町村それぞれ状況は違っており、施設整備等のハード面と保育人材のソフト面の問題も両方あると改めて感じました。

各市町村の計画見直しの中で、しっかり対応できるよう取り組んでまいりたいと考えております。

**【山田委員】**

各市町村へは今回の見直しをどのように伝えているのでしょうか。

全ての市町村が集まる機会はあるのでしょうか。

また、それぞれの市町村で状況も異なるのではないのでしょうか。

**【子育て支援課 渡辺主任主査】**

4月に市町村の担当者会議を開催して周知しております。

また、計画の中間見直しに係る内閣府の通知を事前に市町村へ送付しておりますが、それによると10パーセント以上の乖離は基本的に見直しすることとされています。

来月には市町村の担当課長会議を開催することとしており、その場でも改めて周知を行います。

市町村ごとに状況が異なるため、個別に聞き取りを行うことも検討しています。

**【須田委員】**

福島市でも待機児童が多く存在しております。

地域子育て支援事業に取り組むことも大事ですが、1つ1つが充実していることも大事だと考えています。

**【古渡委員】**

利用者支援事業がキーになると思いますが、この取り組みが低調だと感じます。

利用者支援事業は多岐にわたるため、レベルアップした人がいないと問題が起こりやすいと感じています。

地域の実情に応じて連携する仕組みを構築していくことが重要だと考えています。

**【議長】**

市町村には待機児童の問題のみならず、こうした地域子育て支援の事業にも十分に組み込んでいただきたいと思っています。

**【子育て支援課 細川課長】**

事業を実施する上では、質の向上も重要です。

まずは市町村の担当職員が制度をよく理解していなければなりません。

市町村や実務者の資質向上がポイントです。

そこで、市町村職員を対象とした研修実施や、個別に市町村の状況を聞き取りして対応していく必要もあるのではないかと考えております。

**【関根委員】**

役場としても人員配置の問題や人事異動があり、ノウハウも伝わりにくいことはありますが、課題に少しずつ取り組んでいるところです。

**【安齋委員】**

支援が必要な人が増えています。

しかし、これに対応する専門職の配置が少ないと感じております。

そういった人たちへの支援や連携も必要だと思います。

**【議長】**

障がいのあるお子さんの保育所入所は公立の方が進んでおります。

施設の負担の問題があるからだと考えられます。

**【子育て支援課 渡辺主任主査】**

内閣府からも、障がい児を踏まえた計画を策定するよう通知がきており、今

回子ども・子育て支援事業計画の見直しの際に、こうした内容を踏まえることとしております。

**【安齋委員】**

震災の影響もあり福島県特有の問題もあると思いますので、丁寧な保育をしていくという気持ちを忘れずに実施していくことが大切です。

**【子育て支援課 渡辺主任主査】**

保育の質の向上の一環として、研修等の支援をしていく考えです。

**【議長】**

震災により避難している方のフォローが大切だと感じます。

**【丹治委員】**

認可と認可外の垣根を越えていくこともできればいいと思っています。  
夜間の保育や休日保育なども改善できる点があるのではないかと考えています。

**【子育て支援課 渡辺主任主査】**

県としてもできる部分は支援していきたいと考えています。  
夜間や休日の保育に関して、保育の実施主体の福島市に伝達します。

**【議長】**

認定こども園への設置状況はどうでしょうか。  
また、認可外保育施設の新制度への移行はどうでしょうか。

**【子育て支援課 渡辺主任主査】**

計画値以上に設置されております。  
認可外保育施設から地域型保育事業への移行準備の補助もあり、そうした取り組みへの支援も行っているところです。

**【議長】**

幼稚園から認定こども園の移行が多いように感じておりますが、保育所から認定こども園への移行はありますか。

**【子育て支援課 渡辺主任主査】**

保育所はもともと0歳から5歳児までを預かっているため、幼稚園ほど多くはない状況です。

**【古渡委員】**

中間見直しについて、今後はどのようなスケジュールで進むのでしょうか。  
また、教育・保育施設を利用していない方への支援も重要だと思います。

**【子育て支援課 渡辺主任主査】**

まず、来月に市町村担当課長会議を開催し、計画の見直しについて再度周知を行います。

そして12月までに市町村の数値を把握したいと考えております。

それを踏まえ県の計画を見直し、年明け1月か2月には計画部会へ諮り、年度内に県の計画を策定したいと考えております。

また、教育・保育施設を利用していない方々へも地域子育て支援事業等の充実により、一層の支援をしていきたいと考えています。

**【議長】**

この他、委員の皆様から御意見、御質問等がございますか。  
質疑がないようですので、これで議論を終了します。

**【子育て支援課 影山主幹】**

委員の皆様におかれましては、熱心な御協議をいただき、ありがとうございました。

また、國井議長には円滑な議事運営を行っていただき、ありがとうございました。

それでは、これをもちまして、平成29年度第1回福島県子ども・子育て会議計画部会を閉会いたします。